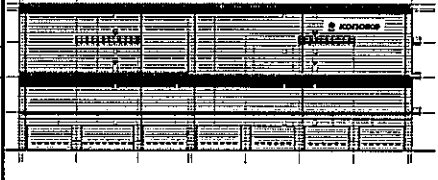


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡京物流センター計画	階数	地上4F
建設地	京都府長岡京市馬場六ノ坪1-4他9筆	構造	S造
用途地域	市街化区域、工業地域、法22条指定区域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年10月4日
敷地面積	11,000 m ²	作成者	株式会社 陣設計
建築面積	6,385 m ²	確認日	2022年10月4日
延床面積	22,174 m ²	確認者	株式会社 陣設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 83%

③上記+②以外の 83%

④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
特になし		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。 補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	緑地を設けることにより良好な景観を形成している。防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。中高木を植栽することにより敷地内温暖環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮。荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される